

企画セッション1 12月7日(木) 11:30-13:00

大災害時にも役立つITS

= 人に優しいクルマへ =

モデレーター
(株)トヨタIT開発センター ITC
顧問
井上 友二

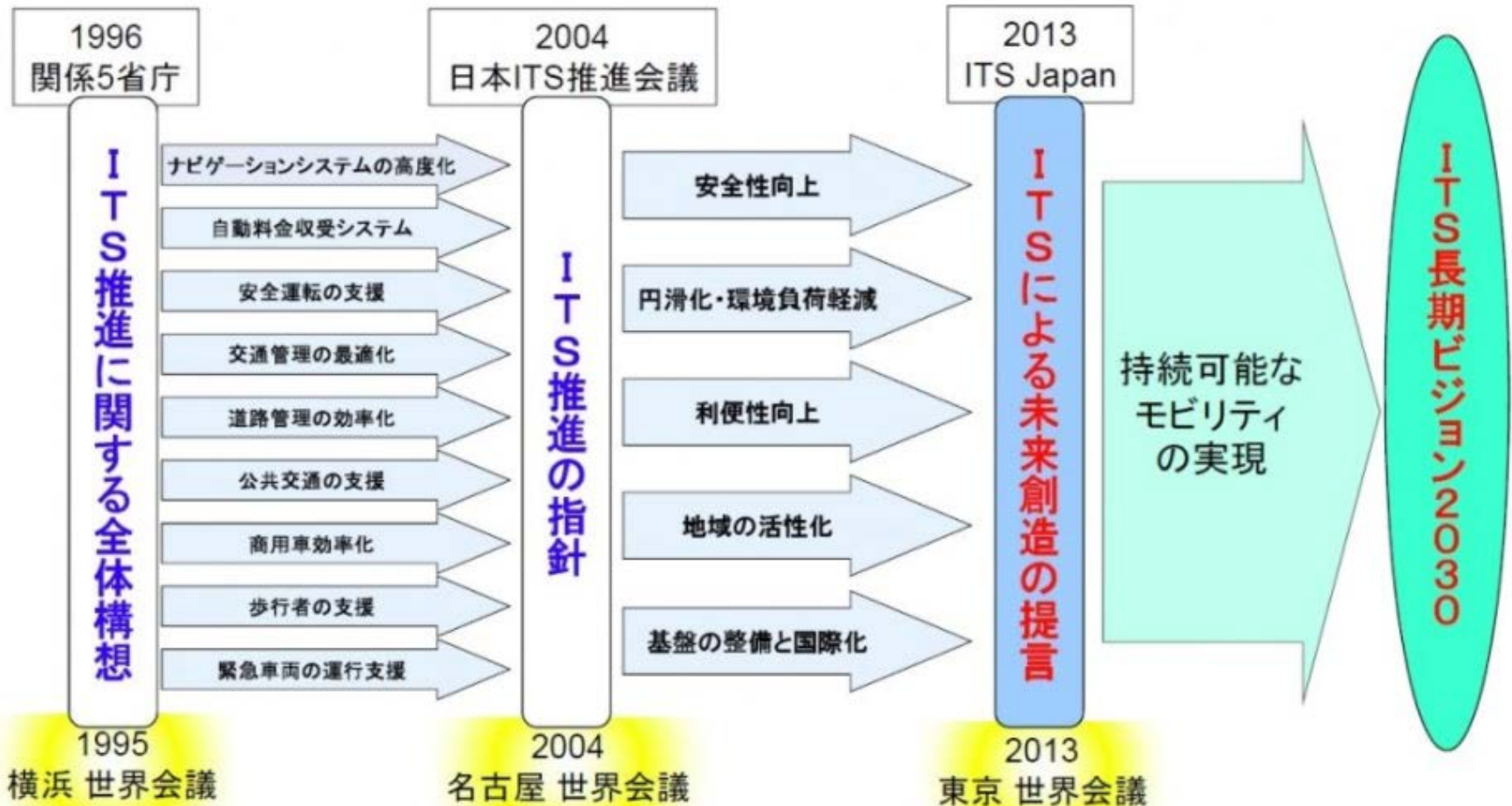


yuji@jp.toyota-itc.com

ファースト・ステージ
(実用化の推進)

セカンド・ステージ
(普及と社会還元加速)

次世代ITS
(社会的課題への対応)



2030年における我が国を取り巻く状況として整理した4E+S(Elderly、Economy、Energy/Ecology、Safety)を軸に、2030年の交通社会の予想される姿を整理すると以下の通り。

(1) Elderly — 高齢化と交通社会との係わり

- ・ 高齢化に伴う交通弱者の移動機会の増加
- ・ 高齢者の就労人口の増加に伴う移動支援の多様化

(2) Economy — 経済・社会状況の変化と交通社会との係わり

- ・ ライフスタイルの変化に伴う移動手段の多様化
- ・ 生産性向上への要求—労働力人口の減少の中でGDP1%半ばの成長維持
- ・ 外国人旅行者、就労者の増加に伴う移動環境の整備

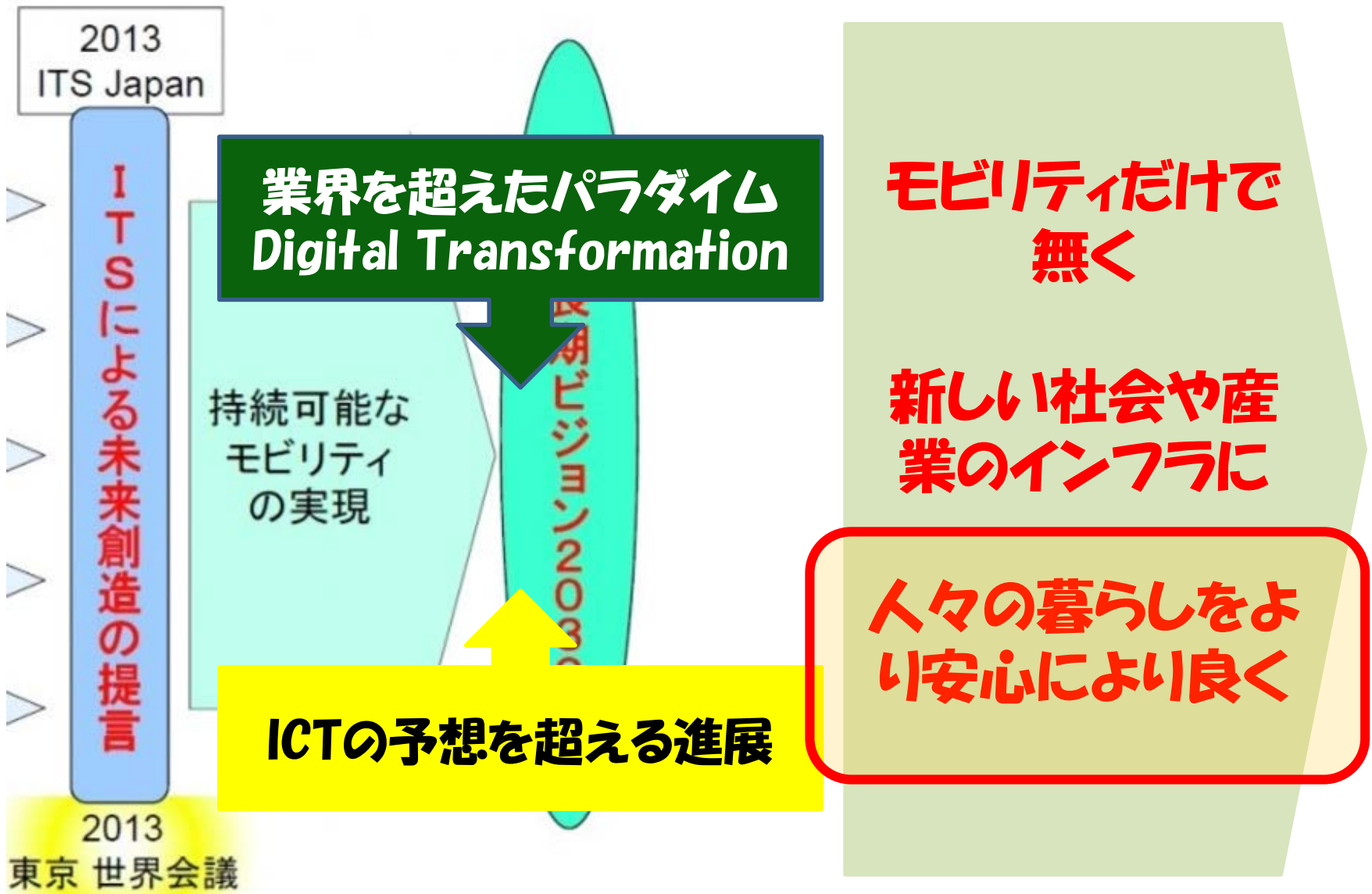
(3) Energy/Ecology — エネルギー・環境問題と交通社会との係わり

- ・ エネルギーの転換とエネルギー効率の向上
- ・ 運輸部門のCO2排出量の削減

(4) Safety — 安全・安心への要求と交通社会との係わり

- ・ 交通事故件数、死傷者数の更なる削減
- ・ 災害時の対応

ITSも核になる進化社会の創造へ



- **ウェアラブルITSや車による情報ネットワークを活用した大災害時の防災・減災システム と 平時への適用**
 - ① **車のセンサーなどを活用したきめ細かい双方向・多言語の災害情報提供と収集、**
 - ② **スマホとのメッセージ通信機能を車に装備することにより通信キャリアが使えなくなった非常時でも地域内で必須の通信を確保すること、**
 - ③ **瓦礫に埋もれた人や水害で孤立した人の救助などにウェアラブルなITSを活用すること、**
- **障害者や移動困難な人の移動手段の確保**
- **CPS全体から見たクルマの役割と期待**

➤ ウェアラブルITSや車による情報ネットワークを活用した大災害時の防災・減災システム と 平時への適用

1. **千村 保文** 情報通信技術委員会
コネクテッド・カー専門委員会 委員長

2. **土居 義晴** 株式会社 トヨタIT開発センター グループリーダー

➤ 障害者や移動困難な人の移動手段の確保

3. **柴田 智宏** 九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授

➤ CPS全体から見たクルマの役割と期待

4. **富田 二三彦** 国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事

各10分の発表 その後 40分の討論